

政務活動費を使用した議員活動について

「2025年問題」社会保障・社会福祉について(研修:令和元年7月3日～5日・全国市町村国際文化研修所)

目的

団塊世代が後期高齢者となる2025年に向けて、介護・地域包括ケアシステム、地域医療、認知症予防等について、今後どのような仕組みづくりを進めていくことができるかを学び、半田市に活かしていきます。

学んだこと

- 社会保障・福祉の政策は「2025年問題」だけではなく、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えた改革が必要となってくる。
- 2040年を見据え、健康寿命の延伸と高齢者就業拡大のための政策づくりを行う。
- 自治体で介護支援に関わるボランティア活動を行った高齢者に対し、実績に応じて換金可能なポイントを付与する「介護支援ボランティア制度」を行うことで高齢者の介護予防と地域活性化につなげていく。
- 認知症対策として医療と福祉など多職種による連携を行う。
守山野洲医師会では地域全体で認知症を見守るために、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネジャー・介護職・行政・地域包括支援センター職員・警察など多職種による「顔の見える関係づくり」と実例を活用したグループワークを通し考え方を共有し現場に活かす取組みを行っている。
- 超高齢化社会に対応するための地域医療が求められる。
病院を早期退院した医療の依存度の高い患者が安心して暮らせる施設として、訪問診療・看護・リハビリ・介護・入浴などを組合せた医療度の高い要介護者でも入れる施設、「IWAO」モデル地域医療が名古屋市内で行われている。

半田市に活かせること

- ・2025年問題だけではなく、2040年を見据えた社会保障・福祉を作っていく。
- ・健康寿命の延伸と高齢者就業拡大のための政策づくりを行う。
- ・半田市版「介護支援ボランティア制度」の実施。
- ・多職種連携による認知症対策の取組み。
- ・「IWAO」モデル地域医療を参考に半田市版の地域医療の取組みを行う。



<参加者 山本半治・坂井美穂>

今後の本会議の予定 12月定例会 12月3日(火)～12月13日(金)

※会期中の日程は約1週間前の会議で決定します。

あとがき

このはんだ市議会だよりは、市議会議員6名が広報委員として、執筆・写真撮りなどの実務を分担し発行しています。委員が心掛けているのは、「親しみやすさ」「読みやすさ」「解りやすさ」です。その結果、文字を減らし、写真やイラストなどを増やした紙面づくりとなっています。

皆様にどのように評価して頂いているでしょうか。読者の皆様からも、ご意見などお寄せ頂ければ幸いです。

広報委員会

- 委員長 中川 健一
副委員長 山本 半治
委員 小出 義一 / 伊藤 正興
澤田 勝 / 久世 孝宏

編集・発行 半田市議会

〒475-8666
半田市東洋町2-1
TEL 0569-84-0694
FAX 0569-24-7185
E-mail: gjji@city.handa.lg.jp



半田市議会へ
QRコードは機読
ソフトウェアの登録
商標です。